

# 招聘研究者インタビュー

ネッリー・ハンナー教授 (カイロ・アメリカン大学)

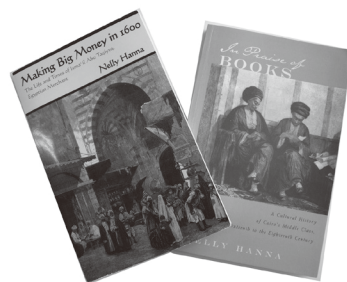
聞き手・鈴木恵美

〔早稲田大学イスラーム地域研究機構

客員准教授(専任)〕

東洋文庫  
点が早稲田大  
学拠点総括  
班予算で招聘  
したネッリ  
ー・ハンナ

ー、カイロ・アメリカン大学教授に、一



代表著作

数の著作がある。尚、ネッリー氏の来日は  
今回が初めてである。

〔質問〕十六世紀後半から十七世紀のエジ  
プトは、政治権力が中央の政治組織から地  
方エリートに移る時期であり、エジプト史  
のなかでも興味深い時代ですが、自身の研  
究対象に、なぜこのオスマン朝期を選んだ  
のですか？

〔回答〕幾つかこの時期に興味を持った理  
由を上げることができるが、主に二つの理  
由があるでしょう。第一の理由は、師のア  
ンドレ・レイモンド (Andre Raymond) 教  
授がオスマン朝の専門であったことです。  
二つ目の理由は、オスマン朝は研究史料が  
豊富で、特に法廷文書に関する史料は非常  
に多様です。自分が研究を始めた頃は、ま  
だ現在のように多くの研究者がオスマン朝  
期のエジプトを研究対象としてはいなかった。  
私はオスマン朝に興味があつてこの時  
期を選んだわけではなく、また具体的な  
研究成果を期待していたわけでもなかつ  
た。史料の豊富さという研究事情からこの  
時期を選んだのであり、研究をしている間  
に興味を持つようになったのです。

〔Making Big Money in 1600〕ではイスマイ

ール・アブー・タキヤという商人を取り  
上げていますが、最初からこの商人の存在  
を知っていたわけではありません。ある法  
廷文書のなかにこの名前が繰り返して出  
ることを発見したことで、この本を出版す  
ることができたのです。私は、依拠する史  
料として法廷文書を多く使用しています  
が、これらの文書のなかには、カイロ住民  
の日常生活から国際貿易まで幅広い世界が  
広がっています。しかも、アブー・タキ  
ヤは頻繁に裁判所に出向いており、多い時  
には毎日出向いている時期もあるのです。  
目的も商売のためだけでなく、結婚、家の  
売買など家族の問題で足繁く法廷に通つて  
います。この法廷文書のなかから、国際貿  
易や国際関係だけでなく、当時の一人のエ  
ジプト人の生涯もみることができるとです。

〔質問〕しかし、オスマン朝期のエジプト  
はマムルーク朝期ほどには研究がなされて  
いないように思われるのですが…。

〔回答〕一般的に、オスマン朝期は衰退の  
時代だと考えられています。つまり、エジ  
プトはオスマン政府の支配下に入ったこと  
で、オスマン帝国の地方都市の一つとな  
り、もはやマムルーク朝期のような帝国で  
はなくなくなったと理解されています。またマ  
ムルーク朝期と比べても、オスマン期のエ  
ジプトは、政治ばかりでなく都市建築など  
芸術面でも停滞期であつたといえるでしょ  
う。そのため、オスマン期は重要ではない  
と考える状況が続いてきたのです。十九世  
紀ムハンマド・アリー期と比較しても、研

研究者を引き付ける要素が十分ではなかった。一九六〇年代、七〇年代は言うに及ばず、一九八〇年代さえも、オスマン朝期の研究はあまり進展がなかったといえます。

しかし、今は多くの研究者の卵が法廷文書の分析を通してオスマン朝期のエジプト研究に従事するようになっており、新しい世代が育ってきています。徐々に研究成果も出始めているのですが、残念なことに現段階ではそれらの大半がアラビア語で発表されています。アラビア語を理解することができないと、これらの研究成果に触れることはできない。オサーマ・アブドゥルムフティーなど、英語の論文があるのは例外といえるでしょう。現在は、エジプトだけでなく他の地域においても、オスマン期が停滞期であるとの考えを再考しようという傾向がみられます。その理由を言葉にするのは難しいですが、この現象はエジプトだけではなく、十九世紀と十八世紀の間に連続性を見出そうとする試みがなされていることが、研究者にオスマン朝期に目を向けさせる大きな要因だと思われる。その意味で、ピーター・グランの著作は重要でしょう。彼の著作『Islamic Roots of Capitalism: Egypt, 1760-1840 (Middle East Studies Beyond Dominant Paradigms)』は難解ですが、彼の考えはオスマン期研究に非常に大きな影響を与えたといえます。彼は、イスラーム的であるか否か、あるいは停滞期か否かは重要ではなく、当時のエジプトで実際何が起きていたかが重要であると主張しました。そして、十八世紀を知

らずして十九世紀を知ることはいくつか述べています。彼の考えが研究者に与えた影響は、今後さらに顕著になるでしょう。

**(質問)** エジプトの文化について質問します。現在のエジプトの文化は情報技術やインターネットの発達により、新しい現象が生まれています。例えば、特に最近話題なのはフェイス・ブックなどのSNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)です。インターネット上でのみ成立するネットワークが、エジプト社会において重要な役割を果たすようになっていきます。また宗教を紐帯とした運動や文化が社会に大きな影響を与えています。中世エジプト文化を研究する研究者として、この現状をどう評価しますか？

**(回答)** フェイス・ブックなどの新しい媒体が社会に広がったのは、経済的な要因が大きいです。文化が商業化し、この商業化した文化に知識人が大いに関わっている。また文化に宗教的要素が濃くなるのは、西側諸国が暴力的な形でアラブ地域と関わっているからです。イラクやレバノン、ガザなどのアラブ諸国への虐殺や爆撃などが続く限り、アラブ人のなかに西側諸国への憎しみが植え付けられるでしょう。人々は西欧社会の良い側面を見なくなってきました。私はこれらがアラブ社会に与える影響について、とても悲観的です。楽観的な要素はありません。

**(質問)** 先生はエジプトでは有名なコプト

教徒の家族の出身ですが、コプト教徒としてのアイデンティティーは、自身の研究に影響を与えていますか？またコプト教徒として中世エジプト社会をどのように見ていますか？

**(回答)** (しばらく考えた後) コプト教徒としてのアイデンティティーは私の研究に影響を与えていないと思う。マムルーク朝期は確かにコプト教徒にとっては苦難の時期でした。多くのコプト教徒がイスラームに改宗し、ムスリムがマジョリティーでコプト教徒がマイノリティーという構図が定着したのもマムルーク朝期です。これは、文書では明らかにはなってはいませんが、状況的にも明らかです。十字軍がキリスト教徒に対するイメージを悪化させたし、マムルークが自分の力を誇示するためにコプト教徒に改宗を促した。この見解はコプト教徒として述べているのではなく、単に事実として述べているに過ぎません。オスマン朝期になると、コプト教徒を巡る状況は改善します。オスマン朝は帝国内のあらゆる地域の宗教コミュニティを認めているし、エジプトに対しても同様です。

**(質問)** 一月一〇日の記念講演では、アラビア語の口語についても触れられました。これまであまり活字として記述されることがなかった口語を活字化する傾向が見られますね。

**(回答)** この傾向は益々広がるでしょう。出版業界もこの影響に拍車をかける要因となっています。より多くの大衆の関心を引き

ネッリー教授日本滞在記

"My visit to Japan lasted one month, from mid December 2008 to mid January 2009. During this month, I gave three lectures on the court records of Cairo on the general theme of the relationship between law and society. There was a double objective in this theme, first to consider some of the issues surrounding the way that the sharia functioned at the level of implementation; and second to expose students to the reading of the texts of court records. I gave a fourth lecture on the occasion of the opening ceremony of the Islamic Area Studies Center, entitled "Oral Culture, Written Culture (17th century Cairo)."

For me, this visit, the first one for me, was an opportunity to learn about Japanese culture and way of life. I had the opportunity to see a part of this culture during my visits in the city of Tokyo and during a two day stay in Kyoto. I was impressed by the kindness and hospitality that I encountered everywhere I went.

It was also an opportunity for me to meet a number of scholars and student working in the field of Islamic and Arab studies in Japan. I was very pleased to meet scholars not only from Tokyo but also from other universities in the country. There are unfortunately not many contacts between Japanese scholars and scholars from Egypt or ther parts of the Arab world. Few in our part of the world are aware of the work that is being done in Japan, especially as much of it is published in Japanese. Even the work published in English does not seem to reach us. Therefore, it was important for me to be introduced to this work and to the Japanese scholars in the field.

I hope that the newly created center of Islamic Area Studies will continue to work towards exchanges of scholars nd of scholarship between our two regions."

き付けるためにも口語が求められています。今後、エジプトという国境を越えてエジプト方言は広まるでしょう。

(質問) 先生はイスマイル・アブー・タキーヤの人生について研究をされましたが、ハンナー家は一九五二年のエジプト革命以前はケナー県の大地主で著名な一族ですね。

(回答) 祖父の時代は大地主でしたが、政治的に影響力のある一族ではありません(聞き手注釈…筆者の祖父はカーミル・ハンナー・パシヤ)。四、五年前ならハンナー家の歴史について知る者が存命でしたが、残念ながら私の家系について知っている祖父の代の関係者や知人は皆亡くなってしまいました。祖父も私が生まれる前に亡くなっているし、ハンナー家の詳細は今となっては知る由もありません。

(質問) ハンナー家は十九世紀に砂糖で財を築き、その資金で売却された王領地を購入したとされていますが、それは事実ですか？砂糖工場を所有していたのですか？

(回答) 一八八二年のイギリスによるエジプト占領の後、砂糖で財を成したようです。綿花ではありません。祖父は砂糖工場は所有してはおらず、工場に砂糖を下す商いをしていました。記録が存在していないので祖父の前の職業については分りません。祖父は欧州で教育を受けましたが、生まれたのはルクソールの対岸です。

(質問) もしハンナー家の誰かが選挙に立候補するとしたら、ルーツであるケナーから出馬することができそうですか？

(回答) 父親なら可能だったかもしれません。父は地元の方を知っていました。しかし、ハンナー家は一九六〇年代か七〇年代

にケナーの屋敷を売却してしまいました。今は小規模な土地を所有しているだけです。私が幼いころは度々ケナーを訪れましたが、今はもう行くことすらありません。ルーツの土地とはほとんど縁が切れてしまっていますから、立候補しても当選することはないでしょう。

(質問) 今後、ハンナー家の歴史について執筆する予定はないのですか？

(回答) (笑って) アブー・タキーヤは法廷文書に多くの足跡を残しましたが、私の家族は何も残さなかった。おそらく、これは都市と農村の違いでしょう。アブー・タキーヤのように都市に暮らす者は全てを記録に残しましたが、農村ではそうではなかった。農村では物事を活字にして記録に残す習慣も、その必要もなかったのだと思います。